

国際交流基金事業助成報告書

薬学部 3年次生 松村 歩美

2月26日～3月10日までの13日間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州キングスクリフにて語学及び薬学研修を行いましたので、報告させていただきます。

1. 現地研修校 North Coast TAFE Kingscliff Campus での生活・授業について

TAFE では午前には English class が、午後には Pharmacy class の授業がありました。お昼になると、ほかのコースを受講している生徒と lunch を食べながら交流することもありました。図書館やコンピューター室、キャンティーンなども利用することができ、充実した学校生活を送ることができました。

・ English class

このクラスでは主に、スピーキング・リスニング能力の育成に力を注いでいました。日本の英語教育現場では、世界的に見てもスピーキング能力があまり大事にされていないと感じます。そのため、もっと英語を使って話す機会を欲していた私にはうってつけの授業でした。また、その日の授業で初めて知った単語を覚えやすくするための工夫として、英語かるたや早押しゲームなどといったアクティビティを先生が考えてくださったので、楽しみながら語学を習得することができました。



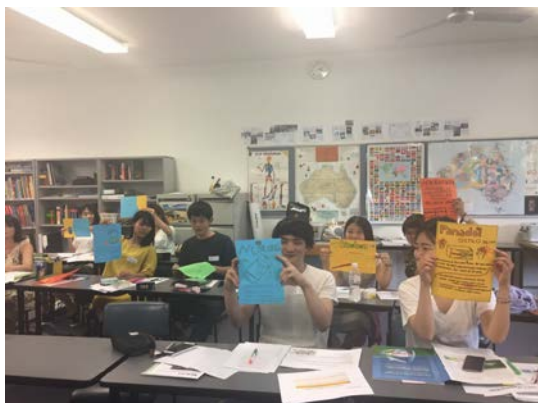
←写真1:クラスメイトと English class を受け持ってくださいました Liz 先生

・ Pharmacy class

このクラスでは、オーストラリアの医療システムや薬局の役割などを学びました。専門用語がたくさん出てきたので、最初は聞き取ることがとても難しく苦しみましたが、授業内容でわからないことがあるときは、クラスメイトと一緒に

考え伝えようと努力しました。先生も私たちが理解するまで何度も繰り返し説明してくださいましたので、しっかり内容を自分のものにすることができました。また、自分たちで手を動かすことでオーストラリアの薬の制度について理解を深めることができました（写真2参照）。さらに、日本とオーストラリアで異なる点をより深く学ぶために、現地の薬局へ実際に足を運び、商品や陳列体系、調剤室の中を見せていただきました。座学とは違って五

感を使って学ぶことができたので、とても記憶に残る経験となりました（写真3参照）。



↑写真2:Pharmacy classで作成したある薬の Advertisement



↑写真3:現地の薬局見学の様子

・異文化交流学習

校外学習として、アボリジニの方からアボリジニ文化や生活について教えていただきました。実際に植生している木の実や葉の効能・効果を教えていただいたり、アボリジニ文化が残っている場所にまつわるお話を聞かせていただいたりと、初めて知る内容ばかりでとても興味深かったです（写真4参照）。また別日には日本でいう小学校6年生との異文化交流をしました。私は折り紙の文化を実演し一緒に作ることで、子どもたちに日本の文化を伝えました。伝えるときに言い回しが思いつかなかったときは、子どもたちが助け舟を出してくれることもあり、子どもたちがつぶやいている言葉を聞き取ることで何を考えているか、何を感じているかを理解することができたので、コミュニケーション能力向上にも大きく関わったイベントだったなと感じています（写真5参照）。



写真4:ある木の葉について説明を受けている様子



写真5:完成した折り紙（かぶと）を持って記念撮影

2、ホームステイについて

私はNew South Wales州のPottsvilleという町に住んでいるご家庭にホームステイさせていただきました。ホストマザーはとてもパワフルな方で、初めて会うまではどんな人なのだろうとドキドキしていましたが、その緊張もすぐに吹き飛びました。放課後はホストマザーの息子や家の近くにホームステイしていたクラスメイトとビーチへ行ったり、ショッピングについて行ったり、とてもアクティブな毎日を過ごしました。どこかへ出かけることのなかった日は、近所の子供たちと一緒にサッカーをしたり、スケートボードを教えてもらったり、空手を教えてもらうこともありました。私は体を動かすことがとても好きなので、スポーツやアクティビティにチャレンジする気持ちは国境を越えるのだなあと深く心に感じました。と同時に、オーストラリアの人は皆とてもアクティブで、明るい時間は1分1秒惜しまず活動し、暗くなると体を休める体勢に入る、というメリハリのある生活をするのだなと思いました。

また、私のホストファミリーはアボリジニの人だったので、出掛けた先々でアボリジニにまつわる話や文化・考え方について教えてもらいました。私たちは普段から自分のものと他人の物の区別をはっきりさせていますが、アボリジニの人たちは「自然から与えられたものはすべて、皆で守るべきもの」、「すべての事象は自然界のものから予測できる」という考え方を持っているそうです。こういった考え方について具体例を交えて聞かせていただくことで、今までにない発想に気づかされ、日本にいるとき以上に自然や身の回りで起きている現象についてとても興味を持つことができました。



写真6：ホストマザーのSashaと息子のJames



写真7：ホストファミリー先にあったアボリジニの楽器や絵、道具

3、感想

私はこの留学に参加するまで、海外の文化や医療システムについて全くと言っていいほど興味がありませんでした。なぜなら、日本にいただけでも海外の情報や文化・食べ物にたくさん触れることができるからです。そんな私が今回この研修に参加しようと思ったのは、日本国内で得られる刺激だけで満足している自分を変えたいと思ったからでした。私は新しい何かに挑戦することがとても好きなので、実際に大学へ入学してからは新しいスポーツを始めてみたり、学祭運営に携わってみたり、多業種のバイトを経験してみたりし、様々なコミュニティーに属することで、新たな視点を得たり刺激を受けたりしてきました。正直なところ国内で得られる刺激で十分満足していたのですが、環境も文化も言語も異なる外国だと、さらに高みを目指せるのではないかと思い参加を決意しました。実際に行く前の自分と行った後の自分を比較すると、今まで気づかなかった視点で物事をより多角的に見ることができるようになったと感じています。この成長を生かし、現在は私が立案したある企画を、主催者となって個人で運営している段階です。この企画の立ち上げ・運営も、将来私になりたい薬剤師に近づくためには必要不可欠なことなので、自分のやりたい将来像を心に描きながら日々精進しています。

参加することに迷いがある方へ伝えたいことがあります。7つの習慣という本の中に“緊急度ではなく重要度を優先せよ”というコラムがあります。これはまさに、この語学・薬学留学においても言えることだと思います。確かに緊急度は低いですが、将来を見据えると間違いなく重要度の高いイベントになるぐらい、自分のことを改めて見つめ直すことができ、さらに新たな発見に出会えると思います。迷いがある時こそ、一歩踏み出すべき時だと、私はそう考えます。

最後になりましたが、この語学・薬学研修に携わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。この報告書が「よし、行ってみよう」と思う一つのきっかけになれば幸いです。



写真8：授業最終日に参加者全員と記念写真